



# 安行小だより

安行小学校 3月号  
令和2年3月2日

学校教育目標 ○まじめな子 ○あかるい子 ○がんばる子



## 幸福度ランキング

“幸せいっぱいくすのさん”

校長 吉田 明美

フィンランドという国をご存じですか？北欧の国、オーロラ、サンタクロース発祥の地、北欧デザイン、最近には県内にムーミンパークもできて、より関心が高まり身近になっている国です。また、2018年、2019年と幸福度ランキングで世界一になり、幸せな国としても紹介されました。

北欧の国々やフィンランドは、社会福祉が充実していることでも有名です。教育費は大学まで無償（国家負担）、給食費も無料で、これは「人材の育成こそが国の発展を支える力」の考え方に基づいているものです。かつて、フィンランドがOECDの国際的な学習到達度調査であるPISAで、トップの成績を上げ「学力世界一」と注目されました。ちょうどそのとき、フィンランドの教育施設を視察する機会がありました。11月の上旬で、朝起きると外は真っ暗、ホテルから見える大きな温度計はマイナス5度を指していて、日照時間が4、5時間。でも、外気に比べて室内はとても暖かかったことが印象的な国でした。

幼稚園から高校、図書館などを見て回りましたが、子どもたちは少しシャイで真面目、謙虚なところが日本とよく似ていました。教室にある素敵な北欧デザインの机の周りで、グループになって作業や話し合いをしながら授業が進み、先生がなぜ？と問いかけながらガイドし、時には児童・生徒が先生役となって互いに学び合う授業形態、自分の考えを表現する訓練が日々行われているところなどを学びました。また、入学試験がなく、合否は普段の成績で判定され、その成績は日頃の授業での活動の様子や本人の意欲、態度、理解度などからの総合判定です。

職業高校の施設設備も充実していて、卒業後すぐに職場で即戦力として働けるよう専門性や高度なスキルを学ぶ環境が整っていました。また、就職した後に大学に入る人も多く、必要に応じて新たなスキルを学び続けて、ステップアップすることが当たり前な国でした。



さて、これからの人生、思い通りにいかなかったり、人間関係に悩んだり、全ての希望や夢が叶う訳ではない。今後、日本も進路選択の自由度が大きく、再チャレンジを可能とする教育が進むであろう。自分にとって有意義な人生がおくれるかどうかは、うまくいかないときもやり直したり、新しい希望をみつけてそれに近づこうとする個人の意思にかかっている。“幸福度ランキング”の幸福度は、自分らしく生きること起因する。

自分は「〇〇がしたい。だから、学びたい。」と思う。家庭、学校、地域で、「あなたは〇〇ができる」と認め、励まし続けて、光を当ててあげる。暗いところでは光らないけれども、光を当ててあげると光り出す。1個では壊れやすいけれども、組み合わせであげて壊れにくくしてあげるのが家庭、学校、地域である。

フィンランドでは、道に迷っていた私に、小学生くらいの子が「May I help you?」と声をかけてくれました。少し距離を置いた先には、その子の家族がにっこりと見守っていて、「あの外国の人はたぶん道に迷っているだろうから、教えてあげなさい。」と言われたのでしょ。



フィンランドでは、チャンスとばかり雷鳥（日本では特別天然記念物）やトナカイの肉にもチャレンジしました。『チャンス・チェンジ・チャレンジ』の精神も幸福度につながるものと思います。